

第2回学校運営協議会 議事録

実施日：令和6年12月11日(水)

時 間：14：15～16：45

場 所：六郷高等学校 会議室他

出席者

佐藤 良一	六郷高校同窓会会長（地域代表）
栗林 守	美郷町教育委員会教育長
後藤 智之	教育振興会会長（外郭団体代表）
熊谷 尚輝	P T A会長（保護者代表）
西鳥羽 裕	美郷中学校校長（地元中学校代表）
檜森 吉裕	美郷町商工会会長（地域代表）
小松 勉	地元町内会代表（地域代表）
鈴木 正洋	地元メディア「美郷の話題」代表
長谷川幸子	美郷町議会議員・議会広報常任委員会委員長
藤岡 誠人	町活性化団体（地元N P O団体代表）
西村美智恵	前P T A会長
梶原恵美子	美郷町地域おこし協力隊
伊藤 哲	校長

1 全体会 I 14：15～14：25（10分） 司会：鎌田

(1) 開会

(2) 会長挨拶

今年2回目の協議会だが、生徒との意見交換がメインとなる。生徒たちとの交流により、生徒が何を考えているのかを引き出し、生徒たちのアイディアを今後の学校運営に活かしていきたい。

(3) 校長挨拶

令和3年度から生徒との意見交換会が行われ、今年で4回目になる。忌憚のない意見をお願いしたい。生徒からの意見を行事等の改善につなげたい。昨年の会で出た意見をもとに、今年度からeラーニングによる学び直しの取組を進めている。生徒に行ったアンケートでは、「やってよかった」という意見が多かった。

(4) 日程説明 鎌田

14：30より「入学したい高校はどんな学校か」をテーマに生徒との意見交換会を行う。

本日から東京の専門学校生が来校し、美郷町主催で食の交流事業を行っている。委員の梶原氏が関わっている。梶原委員から交流会についての案内がある。

(梶原委員)

今回の交流会には、六郷高校の生徒に参加してもらった。私は、地域おこし協力隊の立場で活動しており、以前、自分と交流のあった東京の専門学校生に来てもらっている。若い人のアイデアをもとにしたスイーツが、今まさに完成しようとしている。12月13日(金)に行うのお披露目会の案内をする。

(鎌田)

お披露目会に参加したい委員は会の終了までに申し出てほしい。本日、参加の可否が決まらない場合は、明日の13時までに電話連絡をいただきたい。

日程説明を続ける。意見交換会は3グループに分かれる。会場は、第1グループはこの場で、第2、第3グループは視聴覚室の前方、後方で行う。

その後、15:45から60分間協議会を行う。

2 意見交換(65分) 14:30~15:35(65分)

テーマ「入学したい高校とはどんな高校か」

第1グループ 於：会議室

第2グループ 於：視聴覚室前方

第3グループ 於：視聴覚室後方

(1) 第1グループ

委員：佐藤良一、西鳥羽裕、小松勉、鈴木正洋

参加生徒：藤澤優奈、沢田龍空翔、鶴田向日葵、須田百菜

ファシリテーター：高木敦子 記録：小松徳彦

(ファシリテーター)

六郷高校への入学のきっかけと、高校でやってみたいことは何だったか。また中学3年生のこの時期はどう過ごしていたか。

(藤澤)

ボランティアがやりたかった。

(沢田)

どの高校に入学するか決めまることができないでいた。

(須田)

高校を決めきれいなくぎりぎりまで悩んでいた。

(鶴田)

中学校の先生にアドバイスをいただき、六郷高校を受検しようと決めた。

(佐藤委員) ※同窓生

歩いて通学できる高校というのが優先事項であったため、他に選択肢はなかった。

(西鳥羽委員)

大学進学がしやすい学校を選択した。

六郷高校に学校訪問をしてみて、少人数の学校の良さを感じた。

(鈴木委員)

同級生が入学する流れに乗り、同じ高校へ入学した。

(小松委員)

商業の勉強ができる高校を選択した。

(ファシリテーター)

入学してみてよかったことや、こうして欲しいということがあれば話してほしい。

(藤澤)

先生とコミュニケーションがとりやすいところがよい。

(須田)

少人数の授業で、分かりやすく学ぶことができる点がよい。

(沢田)

授業がわかりやすい。

(ファシリテーター)

もっとこうして欲しいということについてはどうか。

(藤澤)

廊下が寒い対策ができればしてもらいたい。

(須田)

髪型に関する校則が厳しいので少し緩めてもらえたらよい。

(西鳥羽委員)

校則が厳しいことについてであるが、具体的にはどういうことか。また、どうしたらよいと考えているか。

(須田)

髪型についてであるが、体育の授業以外はおろしてきたい。

(藤澤)

思い出を残す絶好の機会である学校祭で髪をアレンジできないのが残念である。

(西鳥羽委員)

制服や校則がないと生徒は集まるのだろうか。

(須田)

ある程度規則はあったほうがよい。制服についても規則があった方がよいと思っている。

(沢田)

将来のためになるので規則はあったほうがよい。

(鶴田)

校則がないとめっちゃめっちゃになると思う。自由すぎるのもよいとは言い切れない。

(佐藤委員)

なぜだろうと思ったら変えてみる。もう一歩前に踏み込むような経験が大事だと感じる。相手を納得させられるように伝えられるようになってほしい。高校に入学することが最終目標ではないので、こういった意見を言える練習が必要だし重要である。今参加している皆さんは少々声が小さめである。秋田県内の事業所の代表の平均年齢は約62歳。高校卒業後はこの年代の方々とコミュニケーションをとっていくことになる。学校生活を通じてコミュニケーション能力を身につけてほしい。

(鈴木委員)

「心臓に産毛を生やす練習」をしてほしい。社会に出ると、人当たりがきつい人とも付き合っていかなければならない。そのような人の一言に負けないように、話を受け流したり、切り返したりする術を身につけてほしい。

(佐藤委員)

高校を決めるにあたり、意見の影響力が強かったのは誰なのか。

(藤澤)

塾の先生だった。

(須田)

親の意見が一番大きかった。

(沢田)

当時の担任の先生だった。

(鶴田)

カウンセラーの先生の意見が大きかった。

(西鳥羽委員)

中学生は将来を見据え、自分の成績や入学定員、高校卒業後なども考慮に入れて高校を選択する。他にも通学のしやすさなどのような地理的なことなど、高校選択に関わる要素はたくさんある。

(ファシリテーター)

入学したい学校とはどんな高校か。

(藤澤)

自分の夢ややりたいことを実現できる学校だと思う。

(沢田)

やりたいことができる学校だと思う。

(鈴木委員)

何で情報を集めるのか。

(生徒)

SNS (インスタグラム、X、T i k T o k、YouTube) である。

(鈴木委員)

同好会をもっと簡単につくれないものか。やりたいことができる、趣味を学校でできるというのはどうか。1、2人の少人数でも活動ができるようにすればよい。CM大賞に応募するのもよいのではないか。

(佐藤委員)

学校運営協議会へ要望を出してみれば、地域の人に支援をお願いできるのではないか。できることは協力したいと思っている。

(2) 第2グループ

委員：栗林守、熊谷尚輝、長谷川幸子、藤岡誠人

参加生徒：熊谷大葵、加賀谷ひな、渋谷大雅、佐藤美咲希

ファシリテーター：伊藤公介 記録：佐藤しずか
(栗林委員)

六郷高校生と休日にすれちがった時に、高校生の方から挨拶をしてくれた。知っていた顔ではないため、町内の子どもではないと思う。地域住民に挨拶をしてくれる習慣があることに驚き感激した。普段から挨拶を意識して生活しているのか。

(熊谷)

祖父と同居しており、近所づきあいが親密である。そのため、日頃から近所の人に挨拶をしている。

(加賀谷)

登下校はバスのため、住民の方とすれ違う機会はあまりない。

(渋谷)

会った人には挨拶をするよう心掛けています。

(佐藤)

すれ違った人に挨拶をするように意識しています。

(長谷川委員)

自分は就職に強い高校を探し、六郷高校に入学をした。六郷高校を受検した理由やきっかけは何か。

(熊谷)

祖父と母の出身校が六郷高校である。中学時代から取り組んでいるバドミントンを続けたいという気持ちがあり、中学校の先生に相談したところ六郷高校を薦められた。

(加賀谷)

保育士になりたいという目標があり、六郷高校で保育系の学校への進学を目指そうと思った。

(渋谷)

小学校、中学校と美郷町の学校に通っていて、高校も美郷町がよいと考えていた。美郷町で働きたいと思っている。

(佐藤)

福祉の仕事に関心があったため、福祉の授業が受けられる六郷高校に入学した。

(ファシリテーター)

入学しての感想はどうか。

(熊谷)

バドミントンを続けることができ、また生徒会役員にも挑戦できた。入学してよかったと思う。

(加賀谷)

授業が分かりやすい。

(渋谷)

中学校の勉強で分からなかったことも、高校で復習したことで分かるようになった。

(佐藤)

復習ができて授業も分かりやすい。

(藤岡委員)

自分の息子が高校に進学をするとき、決め手となったことが親子で真逆であった。親としては少人数の学校であれば、先生たちの目が届きやすくきめ細かい指導がしてもらえと思った。しかし、息子は大人数の学校で、たくさんの人と関わりたいと考え、人数の多い高校に進学した。高校生が入学したいと思う高校はどんなところか。

(熊谷)

やりたい部活動ができる高校である。クラブチームの先輩から、六郷高校のバドミントン部は楽しいと聞いていた。

(加賀谷)

全員初対面ではなく、入学時にすでに友人がいること。

(渋谷)

六郷高校くらいの人数の高校がよいと思っていた。入ってみたい部活動（写真部所属）があること。

(佐藤)

大人数と関わるのが苦手なので、少人数の学校がよかった。

(熊谷委員)

六郷高校の生徒が、今よりもっと楽しいと思えるような学校になるためにはどうすればいいか。

(熊谷)

六郷高校でしかできない行事があればいい。

(加賀谷)

行事や休み時間にスマートフォンの使用を認めてほしい。

(渋谷)

校内でスマートフォンを使えるようにしてほしい。そうすることで生徒同士の会話が広がると思う。

(佐藤)

六郷高校の情報をもっと公開すること。福祉科以外の学科やコース、取得できる資格などをもっと詳しく紹介するとよいと思う。

(熊谷委員)

独自性のあるイベントとして、どんなものが考えられるか。

(生徒、委員)

- ・山が近いので山菜採り
- ・舟ッコ流し
- ・美郷町以外の地域から来た生徒もいるため、美郷町の商店街を探索する取組
- ・自転車競技のバンクを生かした取組
- ・なべっこ遠足

(ファシリテーター)

一度で終わる活動ではなく、準備から携われるような取組ができるとよい。例えば、なべっこ遠足の食材を育てるところから始めるといったようなことなど。入学前に六郷高校の情報はどこから得たか、どのような発信だと見やすいか。

(熊谷)

中学生向けの体験入学があるが、大人数なので質問できない生徒もいる。予約制にして、高校生が中学生を個別に案内してもよいのではないか。

(加賀谷)

情報はインターネットで得ることが多い。

(渋谷)

SNSから情報を得ている。

(佐藤)

ホームページを見た。もっと見やすくなるとよいと思う。

(熊谷委員)

保護者の立場から言うと、高校入学後にかかるおおよその費用（PTA会費や学年経費など）や年間行事予定について早めに知りたいので、ホームページにアップしてほしい。

(SNS利用についての生徒、委員の意見)

- ・インスタグラムやT i k T o kで六郷高校のアカウントをつくり情報を発信する。
例)「授業が分かりやすい」「解ける問題が増えた」など、中学校の頃は知らなかった情報を、在校生の意見として中学生向けに発信をする。
- ・ホームページを見やすくする。HPに質問コーナーをつくる。
- ・保護者目線からだと、行事予定や必要なお金についての情報がHPにあるとよい。
- ・福祉科の授業の様子や学んだこと（BMや車いす介助）をインスタグラムで発信する。
- ・高齢者が多い秋田県だからこそ逆手に取って福祉を盛り上げる。

(3) 第3グループ

委員：後藤智之、檜森吉裕、西村美智恵、伊藤哲

参加生徒：齊藤煌、芳賀遥、小松田悠衣、高橋奏空

ファシリテーター：菅徹 記録：鎌田裕太

(ファシリテーター)

はじめに六郷高校に入学してみでの感想を4人の生徒から話してもらいたい。

(齊藤)

入学前は福祉科が有名なのは知っていた。入学して普通科はコース選択ができることを知り、自分が選択したビジネスコースでは資格取得できた。入学してよかったと思っている。

(芳賀)

兄も六郷高校だった。兄からは六郷高校は相談しやすい環境ができており、先生も皆優しいと聞いていた。私も兄と同じ印象で、楽しく学校生活を送れているので入学してよかったと思っている。

(小松田)

あまり六郷高校のことは知らなかった。私は人とコミュニケーションをとるのが苦手なため、人数が少ない学校がよかった。今は仲のよい友人もできて満足している。

(高橋)

福祉科に力を入れている学校であることは知っていた。福祉科以外にも普通科にいろいろなコースがあり、資格も取れるのでよい学校だと思っている。

(西村委員)

私の周りの中学生、高校生、大学生に「入学したい高校とはどんな高校か」と訊いてみた。その結果、勉強が分かりやすい、制服が魅力的、校則が厳しすぎない、行事が多い、校舎がおしゃれなどの回答を得た。

(高橋)

学校でおしゃれはしてみたい。

(小松田)

「肩より長い髪は結ぶ」という決まりは今の時代には合わないと思う。おしゃれもしたいし、校則が少し緩くなってくれればと思うこともある。

(芳賀)

髪のアレンジやメイクの勉強もしてみたい。もしメイクが許されればクラスメイトとのコミュニケーションも増え、人間関係が広がると思う。

(檜森委員)

制服について、昔は豊かでなく、制服があれば着るものにお金がかからないという考え方があった。例えば制服を選択制にしたいのであれば、生徒と先生、PTAが協議して変更できるのではないか。以前、六郷高校のことはあまり知らなかったが、これまで関わってきたことで六郷高校生の立派さに驚いた。六郷高校を知らない中学生はたくさんいると思う。在校生の皆さんが後輩に六郷高校を宣伝、自慢してくれればと思う。

(後藤委員)

子どもが3人いるが、2人が六郷高校だった。もう1人は横手城南高校だったが、デザイナーがデザインした制服がよくて入学した。そのこともあり、学校が好きになりよい高校生活を送ることができた。六郷高校に入学した2人は、六郷高校でできた人の繋がりが現在も続いていて広がっている。六郷高校に入学してよかったのではないかと知っている。

(ファシリテーター)

人とのつながりが増えるような学校にするにはどうしていけばよいのだろうかという視点で意見を出していただきたい。

(西村委員)

入学してから人の輪が広がるので、入学前の段階では人の輪を広げるのは難しいのではないか。情報発信に関してはスマートフォンを介したものであれば中学生にも六郷高校を知ってもらえるのではないか。

(檜森委員)

今は部活動の勧誘はしないのか。勧誘でつながることはないか。

(西村委員)

部活動に入れば部内で縦のつながりはできるが、入らなければなかなかつながらない。

(後藤委員)

六郷高校にあればよいという部活動はあるか。または地域のクラブ活動等であれば参加してみたいものはあるか。

(伊藤委員)

通学の都合もあり部活動に入れない生徒もいる。近隣の高校も含めて部員数の減少は著しい。生徒数の多い高校であっても、バスケットボール部員が少なく、部内で練習試合ができないところもある。

(齊藤)

友人とバレーボール部があればよいとは話していた。

(檜森委員)

生徒から自主的に先生たちに提案ができるような学校になってもらいたい。例えば、毎年2年生の生徒が主導し、大きなイベントがあればよいと思う。それによって全校がつながり、将来的に同窓会も盛り上がってくると思う。それが中学生にも伝われば、魅力になり入学者数が増えることに繋がる。

(後藤委員)

以前は海外に修学旅行に行っていた。そういったものを復活させるのも1つの方法と考える。

(檜森委員)

案外、制服は生徒が高校選択をする際に大きな部分を占めるのではないかと思う。オリジナリティのある制服があれば入学したいと思う中学生が増えるかもしれない。

(西村委員)

生徒が高校を選ぶ際のきっかけは、自分の成績と制服のような気がする。スポ少で様々な競技をしてきており、その競技を続ける人も多いので、無理に部活動に入らなくてもよいのではないか。

(檜森委員)

緩い部活動があってもよいのではないか。

(ファシリテーター)

部活動になかなか入らないのはなぜなのか生徒に聞いてみたい。

(高橋)

中学校では全員加入だった。中学校では寄り道がダメだったのでそれでもよかった。高校では放課後には友達と遊びに行ったりしたいという思いもあり、部には入らなかった。

(芳賀)

中学校では別の部に入りたかったが、人数が少なかったため先輩が抜けた後のことを考え美術部に入った。高校では家からの距離も遠くなり送迎の関係もあるため部に入るのをやめた。

(檜森委員)

少し前は、部活動に入っていれば就職に有利だったが、今は考え方が変わってきていてあまり重視されなくなってきている。

(ファシリテーター)

どういった活動であれば楽しんでできそうか。

(後藤委員)

例えば、吹奏楽団の人や、上手な人たちと一緒に練習できる機会があればどうか。

(小松田)

やってみたい。

(伊藤委員)

スポ少に週末、体育館を貸し出している。空き教室もあるので、他にもニーズがあれば対応したいと考えている。

(齊藤)

勝ちたくて練習を頑張ってきたが、楽しくない瞬間も確かにあった。部に関係なく楽しめるのであればやってみたい。

(後藤委員)

外部の団体に施設開放する旨をどんどん案内してみるのがよいのではないかな。人数の少ない楽団も仙北市にある。一度声をかけてみてもよいのではないかな。

(檜森委員)

美郷ジャズオーケストラもある。一番近い団体とのコラボも考えてみてもよいのではないかな。

(ファシリテーター)

大会やコンクールに向け練習が厳しくなる時期もあると思うが、休みたいと思ったり、悩んだりすることはあるか。

(小松田)

今年は外部コーチとなり、週2、3日しか指導してもらえない。自分たちで考えて動くことが多くなり大変さが増した。そのこともあり楽しくないと思うこともあった。

(齊藤)

1、2年生の頃は未経験の顧問で、自分たちでメニューを考えたり、OBの方々の力を借りたりしていた。3年生になり、経験者の先生が赴任して、自分たちに合った練習メニューを考えてくれたり、勝つための気持ちの持ち方を教えてくれたりしたので意欲も上がった。

(ファシリテーター)

専門の人がきて教えることへのニーズはありそうだ。

(後藤委員)

六郷高校にあったらいいなと思うことあるか。例えばカフェが来てくれたり、娯楽を楽しめる部屋があったりとか。

(齊藤)

冬が寒いので、体育館と廊下をもっと暖かくしてもらいたい。

(小松田)

購買がほしい。食品というよりは文房具を売ってほしい。

(伊藤委員)

購買は人件費の関係でなくなったしまった。維持はなかなか難しいものがある。学

校で仕入れて職員が売るということはできるかもしれない。

(西村委員)

中学校では購買部があり、係の生徒が売っていた。

3 協議会(60分) 15:45~16:45(60分) 司会:教頭

(1) 各グループからの報告

各グループからどのような意見が出たのか、共有したい。その後、自由協議とした。

①報告

◆第1グループ

自分の中学時の思い出や、高校に入学するきっかけ、入学してからどうしてほしかったか、高校選択のポイントなどを各委員と生徒が話した。生徒からは「少人数だから入学した」、「廊下が寒い」などの意見があった。塾の先生、担任の先生などの意見も大きかったようだ。他にも、将来の目標を叶えられること、点数や定員を基準にして学校を選んでいるという意見もあった。

「コミュニケーション力を身に付けるためにはどうしたらよいか」について話し合った。心を強くすることを、「心臓に毛が生える」と表現することがあるが、そこまですべてでなくても、少しでも心を強くさせる練習が必要であるという意見があった。

生徒からボランティアがしたかったからという意見もあった。やりたいことができる学校、それを実現できる学校を目指し、HPだけでなくSNSでもPRをすることについて話し合った。

◆第2グループ

学校生活を楽しむことが、テーマにつながるということで協議が進められた。山が近いので山菜とりや、六郷の清水に関わる行事もあればよいのではという意見が出された。

他にも六郷の街並みを知るといことも良いのではないかと意見が出された。

会話を広げるために、休み時間にコミュニケーションツールを使うようにするという意見もあった。

単発の行事ではなく、継続してやれるような行事にしていければよい。例えば、食材を育てるところから鍋っこ遠足まで行うなど。太田分校ではグラウンド・ゴルフを行っているが、グラウンド・ゴルフであれば、スティックを作るための木を育てるところから行うなど。

中学校にもっと情報発信をという意見もあった。情報発信したいと生徒たちは考えているので、Instagramで学校のアカウントを作成し、生徒による発信ができればよいと思う。学校に必要な経費の説明など、保護者目線でのHPを充実させて欲しい。福祉科以外の情報も欲しい。

◆第3グループ

六郷高校の魅力を創っていければという視点で意見交換が行われた。

制服についての意見があり、ズボン、ネクタイ、リボンなど様々なパーツを選べるようになってほしいという意見があった。

校則に関する意見もあり、仮にメイクが許されればメイクの勉強にも繋がり、メイクをすることで生徒間のコミュニケーションの輪が大きくなったり、コミュニケーションの機会も増えるのではないかという意見があった。

スマートフォンを介して情報が得られるようにしてほしいという意見や、生徒が自主的に先生に提案できる学校になってほしいとの意見もあり、かつて行っていた海外への修学旅行を復活させてみてはどうかとの意見もあった。

部活動については、地域で活動している世代の違う競技団体や吹奏楽団等と一緒に練習できるようにし、そういった人たちに会場として学校を貸し出すことで六郷高校を知ってもらえるきっかけになるのではないかといった意見があった。

購買が欲しいという意見もあり、中学校の例では係の生徒が購買を運営していたという学校もある。

②全体協議

(藤岡委員)

第3グループで海外の修学旅行の復活という意見があったようだが、海外交流は美郷町もタイと交換留学を行っている。栗林委員、交換留学は中学生対象か。

(栗林委員)

中学生が対象で、高校生対象ではない。

(後藤委員)

西仙北高校で海外との交流を行っていたはずだが。

(教頭)

西仙北高校はデンマーク短期留学を行っている。もともと岩手県の西和賀高校が行っていたものである。そこに大仙市が補助をするようになった。意図としては福祉国家の現状を勉強することと異文化交流である。タイについては、短期の留学生が来たこともある。西仙北高校の同窓会長が国外と広く繋がりのある方で実現していた。しかし、それは単位を認定できる留学とは認められないとのことであった。六郷高校は県立の学校なので、美郷町のタイとの交換留学は管轄外なので難しいところがあると思う。

(藤岡委員)

そういったことがあれば六郷高校に入学する生徒も増えるのではないかと考えた。

(教頭)

デンマークに行きたくて西仙北高校を選んだという生徒は数名はいた。

(熊谷委員)

全部のグループに共通しているのが生徒自身がSNSを通じて学校の情報を発信するという意見である。小学生もインスタグラムを自在に扱っている。「近隣の高校でインスタグラムをやっている高校はあるか」との問いに対して生徒は「ないのでは」と言っていた。そうであれば六郷高校が始めてみるのはどうだろうか。ルール作りはしなければならないにしろ、すでに使い慣れたツールを利用するため、特別な準備は必要ない。生徒に「それならできるか」と聞いたら「やれる」と答えた。

(西村委員)

この辺の学校ではないが、顧問の先生がいて情報発信する部のようなものがある学

校もある。顧問がいればチェックもしやすいだろうし、実現できるのではないか。

(会長)

カテゴリーが小さければたくさんあるようだ。YouTubeでやってみてはどうか。

(熊谷委員)

生徒がよく使うツールで発信するのが一番よい。様々なツールはあるが、子どもが一番使うものとしてインスタグラムの名前が出てくる。

(西村委員)

YouTubeよりは、ショート動画で情報が流れて来やすいインスタグラムの方がよいのではないか。生徒もやりやすいし生徒第一で考えてみてもよいのではないか。

(教頭)

ルールづくりや、顧問の配置等難しい話もあるが、デジタルタトゥーなどの怖さはないか。

(西村委員)

使うときのルールを作ったり、違反した使い方等があれば連帯責任でクラス全員のスマートフォンを預かるなどのルールを作って覚えさせればよいのではないか。

(教頭)

魅力を感じさせるという点について思ったことはないか。

(会長)

この学校の魅力を発信するとなればどうしてもSNSの話になる。そうなれば学校でずっとスマートフォンを持たせるかどうかという話になる。秋田市の高校ではスマートフォンを預からない高校もあると聞いたことがある。

(伊藤委員)

秋田市の高校はスマートフォンを預かっていない。秋田工業高校の例だが、ルールを破ったときに、反省文を原稿用紙3、4枚ほど書かせる指導をしていた。ただし、放課後の使用までは縛れない。

(会長)

無理にSNSでの告知を生徒にやらせなくてもよいのではないかと感じる。大人と生徒の考えが一致したもので告知するのがいい。

(西村委員)

県外から生徒を集めたいのであれば、SNSでの発信が効果的だと思う。なぜまだスマートフォンを預かるのか。

(伊藤委員)

学校は昔から取り上げる指導が多いと思う。秋田工業高校に赴任したとき、「預からなくて大丈夫なのか」と心配していたが、大丈夫だった。電源を切ってバックにしまうということを徹底していた。私は、本校のワンタッチネクタイが気に入っている。ワンタッチではなく普通のネクタイにして、きちんと締めさせるのが本当の指導かと思う。

(西村委員)

昔は普通のネクタイだった。リボンも今のワンタッチ式ではなかった。

(会長)

県南では横手高校以外ではスマートフォンを預かっている。学食のある高校では、スマホ決済を導入したいためにスマートフォンを持たせてほしいと、業者からお願いされているようだ。

(鈴木委員)

今年度スタディサプリを始めたとのことであったが、スマートフォンで勉強させてみてはどうか。

(伊藤委員)

校内ではタブレット端末を使い、朝に全校でeラーニングのスタディサプリで勉強している。スタディサプリは急な職員不在時の授業対応(自習)もできる。

(鈴木委員)

スマートフォンは自分で管理させ、預からない方向にしてもよいのではないか。

(伊藤委員)

スマートフォンは高価なものなので、管理時の事故が心配である。今後の取り扱い方法について検討したい。

(西村委員)

前例がないのであれば前例を作って、ダメならばまた戻せばよい。

(熊谷委員)

休み時間にスマートフォンを使いたいという生徒の意見もあった。

(伊藤委員)

他校ではどうしているかなどリサーチをして検討したい。

(教頭)

情報発信の仕方からスマートフォンに関する意見が出されていたが、生徒の活動が魅力的であれば、発信をしたときに受け取り側へのPRになる。見映えする情報を発信するというよりは、生徒が発信した情報が魅力的であるために学校はどうすればよいだろうか。

(西村委員)

今回の意見交換に向けて、周囲の中学生、高校生、大学生に「入りたい高校とはどんな高校か」とアンケートをしてみた。勉強がわかりやすい、制服や校則が厳しすぎない、行事が多い、校舎がおしゃれなどがあった。

高校選択の大部分を占めるのは、自分の成績と制服のような気がする。男女関係なくズボンとスカートを選択できたり、スカートも柄が2種類あったりといったような、制服のバリエーションを増やしてみてはどうか。皆同じ格好をしなくてもよいのではないか。

(会長)

第1グループで頭髪について話した生徒がいた。「なぜだめなのか」と生徒が発言することができるのは大事だと感じる。制服のバリエーションが増えたとして、保護者の負担は大丈夫であろうか。

(熊谷委員)

学校からの情報が少ない。行事予定等はあるが、学校生活に必要な費用などの情報

も欲しい。その情報がいつでも得られるようになっていけば、保護者の心づもりも違ってくと思う。

(会長)

情報発信も行き過ぎると、逆の発信にもなり得る。

(教頭)

発信した子にとってデジタルタトゥーになり得る可能性もあり、なかなか踏み込めない。

(伊藤委員)

生徒個々に自由にSNSを使った情報発信は難しいと感じる。できるとすればHPがInstagramになるという程度だと考える。

(熊谷委員)

生徒が個別に勝手に情報発信するのではなく、発信する情報を生徒が作成し、先生に伺いを立てる方式ではどうだろうか。子どもたちがInstagramで魅力を発信することに意義がある。授業と部活動の他に、こういった活動があることも学校の魅力に繋がるのではないか。どんなことをしたら魅力に繋がるかを今回意見交換会に出た生徒以外にも聞いてみるとよい。年間を通して継続的に取り組むことのできるものを作ってみたいはどうか。

(鈴木委員)

第1グループでは授業と部活動の間のもがないので、同好会をもっと手軽に立ち上げられるようになればよいのではないかと話が出た。本当に好きなものを学校でできるということが広がれば魅力になっていくのではないか。

(藤岡委員)

我々大人が考える高校と、子どもが考える高校が乖離している。実際、子どもたちが話したことが実現できれば子どもにとってもよい影響がある。トライアルでできることからやってみれば今回の意見交換会の意義もあったと思う。

(長谷川委員)

第2グループで意見交換したが、生徒はいろんなことを聞けば聞くほど話してくれる。六郷高校生の挨拶も素晴らしい。SNSで子どもたちがよいと思うことを情報発信できれば、今日参加した生徒も自分たちの意見が反映されるということを実感できると思う。このことが広まれば、親に対してでも、先生に対してでもいろんな提案ができるようになるのではないかと感じた。

(小松委員)

六郷高校生はよく挨拶してくれる。挨拶も大事だが、やはりコミュニケーションを大事にしてほしい。地域と連携する中で、地域と分かり合える学校になってほしい。

(後藤委員)

購買の話に関してだが、生徒が運営し、また支払いをスマホ決済にすることができれば、スマートフォンを校内で持つ理由にもなるし、運営をすることで生徒の経験が増えることにつながる。

(西鳥羽委員)

学校の存在意義は何なのかと感じた。学校の独自性は何かと問われたとき、どういったことが独自性に繋がるのかと考えさせられた。第1グループでは校則が厳しいという意見があったが、「校則が緩くなれば生徒は集まるか」と問うと「それは違う」と生徒は答えた。ある程度ルールが必要で、それがなければ自分たちが住みにくくなると答えた生徒もいた。自分のことだけでなく、全体のことも考えられる生徒だと感心した。

勉強がしやすい、先生方とたくさん会話ができるといった意見があったが、こういった少人数の利点を活かしていければと感じた。SNS発信についての意見がたくさんあったが、SNSでの発信はよいことばかりではない。誰が見ているか分からない怖さがある。良さとリスクを考えながら進めた方がよいと感じる。

(栗林委員)

個別の体験入学があればいい。少人数だから入学したと言う生徒もいた。現在の状況でも魅力はある。生徒と意見交換できたのが今日の一番の収穫であった。

(伊藤委員)

SNSを介した発信については、生徒の要望も聞き、学校運営に影響のないようにしなければならないと考える。今後、関係の分掌で検討したい。

4 諸連絡

今回は令和7年2月21日(金)を予定している。1月中旬に案内する。

5 閉会